

平成28年度第2回光市総合教育会議 会議録

1 開催日時

平成29年1月30日（月）午後1時30分～午後2時30分

2 開催場所

光市教育委員会1階ホール

3 出席者

(1) 構成員

光市長 市川 熙

光市教育委員会 教育長 能美 龍文

〃 教育委員 永岡 榮之

〃 教育委員 河村 博明

〃 教育委員 寺崎 益朗

〃 教育委員 中西 かおり

(2) 関係者

ア 総務部総務課

中村総務部長、小田総務部次長、清水総務法令係長

イ 市民部地域づくり推進課

縄田地域づくり推進課長

ウ 福祉保健部子ども家庭課

西村子ども家庭課長

エ 教育委員会事務局

蔵下教育部長、太田教育総務課長、和田学校教育課長、奥屋学校教育課主幹、弘文化・社会教育課長兼人権教育課長、村崎体育課長、穂山図書館長、呉橋学校給食センター所長、影土井教育総務課経理係長、村上教育開発研究所主任研究員、永光教育企画担当（学校教育課）

4 傍聴者

4名

5 次 第

開 会

(1) 市長あいさつ

(2) 議 事

ア (仮称) 光市教育大綱 (案) に対する意見 (パブリックコメント) の実施結果について

イ 協議・調整事項

(仮称) 光市教育大綱の策定について

ウ その他

閉 会

6 議事録 (要旨)

開 会

(1) 市長あいさつ

私たちは、人口減少社会という言葉を毎日のように耳にしている。例えば、身の周りにおいても、数年前まで15世帯あった自治会が現在では8世帯になり、2050年には1世帯しか残らず、後はすべて無人の空き家になることも予測されている。このように、今、私たちの身近でも急速な人口減少社会の現実を感じ取ることができる。

このような現在 (いま) を生き抜くため、私は、3期目の市政運営に取り組むにあたり、所信表明において「現在 (いま) と未来をつなぐ『やさしさ』の架け橋をつくるとともに、誰もが『幸せ』や『満足』を心から実感できる『ゆたかな社会』の実現を目指す」ことを申し上げ、そうした社会を実現するために、本市の大切な宝であり希望の光でもある子どもたちに質の高い教育を提供することを政策の大きな柱の一つに掲げたところである。

私は、人口減少社会において、この「ゆたかな社会」を実現しないといけないと思っている。「ゆたかさ」の捉え方は人それぞれにあるが、一つには、時代が変化しても変わってはならないものがある。それは人と人との「絆」であり、また、私たちの言語である「国語」、古き良き「伝統・文化」が息づく社会である。一方では、時代とともに変わっていかねばならないものもある。それは私たちの「生き方」であり、「教育の在り方」もその一つである。時代とともに変わらなければならないが、時代が変わったとしても教育によってこそ私たちが共有できる唯一無二のものがあるという、その想いが教育を施策の柱の一つに挙げた理由である。

本日の総合教育会議では、先日実施した (仮称) 光市教育大綱 (案) に対するパブリックコメントの結果等について報告させていただき、最終的な教育大綱 (案) をとりまとめていきたいと考えている。皆様の忌憚のないご意見をお願いしたい。

(2) 議 事

ア (仮称) 光市教育大綱(案)に対する意見(パブリックコメント)の実施結果について
パブリックコメントの実施結果について、教育委員会事務局より説明。

【質疑・意見等】

(構成員)

一つ目の意見は、教育振興基本計画の策定は必要がないのではないかという主旨であったのか。

(事務局)

意見の主旨としては、教育振興基本計画をなぜ教育大綱と同じ時期に策定しないのかという内容であった。教育振興基本計画については、教育大綱で定めた本市教育の骨格を具体的、計画的に実施するための計画と位置付けていることから、このたびは同時期としていない。

教育に関する計画等については、最上位計画に光市総合計画があり、総合計画及び国が策定した教育振興基本計画の基本的な方針を参酌して策定する光市教育大綱がある。更には、従前から毎年策定している光市教育委員会重点施策があり、その間に位置する計画として教育振興基本計画があるものと考えている。

(構成員)

その間に位置するとは、具体的にはどういうことか。

(事務局)

資料にも掲載しているとおり、教育大綱は平成29年度からの5年間を見据えた本市教育の骨格を成すものであることから、教育振興基本計画は、光市総合計画及び光市教育大綱の下段に位置付け、更には、そうした計画を実施していくための個別施策等は光市教育委員会重点施策で定めていることから、その上段に置いているところである。

イ 協議・調整事項

(仮称) 光市教育大綱の策定について

(仮称) 光市教育大綱の策定について、教育長より説明。

【質疑・意見等】

(構成員)

前回の会議では「光っ子」という表現が具体的にイメージできなかったが、よく整理され、何となく「光っ子」をイメージしやすくなってきたように思う。

また、現在策定中の第2次光市総合計画にも「光っ子」といった表現は使われているか。

(事務局)

使われている。

(構成員)

『教育ブランドひかり』の創造については、概要図にも示されている基本目標の1から5に関連する項目として位置付けられているものか。それとも基本目標と「教育ブランドひかり」に掲げる6つの取組みは、それぞれ横並びの目標として11項目あるということか。

毎年策定されている光市教育委員会重点施策については、教育大綱で定めた基本目標と関連付けながら展開していくことが必要になると思う。

(構成員)

『教育ブランドひかり』の創造については、基本目標1に関する内容を特に重点的に取り組む光市ならではの教育戦略として6項目を掲げているところである。

光市教育委員会重点施策の内容についても、教育大綱の基本目標としっかりと関連付けていく必要があると考えている。

(構成員)

基本目標1において、重点的に取り組む内容として『教育ブランドひかり』の創造があり、5つの基本目標のそれぞれについては、これから策定していく教育振興基本計画に関連付けていくと理解すれば、本市の教育施策が非常に分かりやすく整理され、また体系的に推進されていくものと思う。

(構成員)

先ほどの「光っ子」に関して、第2次光市総合計画においても、ひかり未来創生プロジェクトの一つである「はぐくむ光！未来へ輝く『光っ子』育成プロジェクト」の中で「光っ子」という表現が使われている。

(構成員)

第2次光市総合計画の「光っ子」は、子どもたちを表現していると思われる。一方、教育大綱での「光っ子」は、子どもから大人までを含んでいるように思えるがどう考えるのか。

(構成員)

第2次光市総合計画の「光っ子」は、学校教育分野における子どもたちの総称として用いられている。教育大綱では学校教育分野だけでなく社会教育や生涯スポーツなど、すべての市民を対象とした基本目標がそれぞれ掲げられている。「光っ子」が持つ意味合いや解釈については、総合計画と教育大綱の整合を図る必要があることから、改めて「光っ子」の捉え方について整理することにしたい。

(構成員)

全体的な内容については理解している。「光っ子」の捉え方の整理についてはお願いしたい。

(構成員)

表現の捉え方等に補足などが必要であれば検討したい。

(構成員)

『「教育ブランドひかり」の創造』のうち、次世代型コミュニティ・スクールの推進は非常に大切なことと思う。先日の福井市への研修視察では、家庭の教育力がとても重要であることを学んだ。家庭教育について教育振興基本計画に記載をお願いするとともに、コミュニティ・スクール事業の更なる推進についても合わせてお願いしたい。

(構成員)

総合教育会議の議論をはじめ、さまざまなご意見をいただき、光市の教育は更にすばらしいものになると感じている。光市はおっぱい都市宣言のまちであり、子どもを育てる環境は非常に良く整備されている。子育てしやすい環境は、今後の人口の増加にも繋がるものと期待している。

それぞれの家庭のさまざまな事情等もあり、小・中学校は市内で学び、高校は他市に進学するというケースもあるが、『「教育ブランドひかり」の創造』の冒頭にも、ふるさと光市の将来を担う子どもたちの教育を中心に取り組んでいくと書かれている。私たちは、小・中学校の児童生徒をはじめ、高等学校との連携も含めた魅力ある教育、学校づくりを目指していかなければならない。

(構成員)

子どもたちは、地域の皆さんの温かいご支援をいただきながら多くを学び、さまざまな体験を通じて成長している。本市にはコミュニティ・スクール事業をはじめとする地域と連携した教育の基盤があるからこそ、子どもたちは健やかに成長できる。これからも地域の方々のお力添えをいただきながら、更なる質の高い教育の提供に繋がっていきたい。そうした想いが、この光市教育大綱に盛り込まれている。

(構成員)

地方都市を中心に、私たちは急速な少子高齢化の現実を突き付けられている。人口減少社会を克服し、活力ある地方都市を構築するためには、子どもたちを中心とした質の高い教育が必要と思う。このたび策定する教育大綱を中心に、光市の教育が滞りなく推進されていくことを期待している。

ウ その他

その他の事項等なし

午後2時30分終了